

市立農業経営者育成学校「SEADS（シーズ）」は、農業の担い手を育成する施設として令和2年4月に開校し、1年となりました。SEADSニュースでは、今後、研修生の研修の様子やシーズでの取り組みなどを紹介してまいります。

## 令和3年度入校式 ～ 9名の2期生が入校～

4月6日に今年度の入校式が行われました。昨年度に入校した1期生の代表からは、「主体性を持って研修に取り組むことが非常に大事な要素になる」と激励がありました。

2期生の誓いの言葉では、「農業を通じて様々な方と繋がり、鶴岡市の発展と地域の課題解決のために、2期生一同、未来に向かって成長し続ける」と力強い決意がありました。

9名の2期生は、シーズを拠点に2年後の鶴岡での就農を目指して、座学と実習研修に取り組んでいきます。



## 地元農家での研修が始まりました

4月7日から実習受入農家と2期生との顔合わせが始まりました。今年度から、研修生一人ひとりが個別の農家で研修することにより、マンツーマンで技術を学ぶようになります。また、農家が研修生の相談役となることも期待されます。



## 研修体制の強化に取り組んでいます

シーズでは、研修環境や生活環境の充実・強化に向けた取り組みを進めています。

### ○研修・相談・支援体制の強化

- ・校長、農業技術アドバイザー、就農支援アドバイザーの3名を新たに配置し研修生のサポート体制を充実しました。
- ・校長やアドバイザーがサポート役となり、新たに一人ひとりをサポートする担任制を導入しました。

### ○カリキュラムの充実

- ・農家の指導に加え、校長やアドバイザーが、実習先を定期的に巡回しサポートします。
- ・経営者としての心構えや思考力を身に着けるため、農業経営の座学の時間を増やしました。

### ○生活環境の改善

- ・これまで自炊でしたが、夕食を提供することにしました。
- ・保健師、カウンセラーによる研修生の健康相談を始めます。